

新センター長就任

医学部長 菱川 善隆

このたび、片岡前医学部長のあとを引き継ぎ、医療人育成推進センター長を拝命いたしました。近年、「スチューデント・ドクターの制度化」や「卒前・卒後のシームレスな医学教育制度化」等、全国でも医学教育制度の改革が進められていますが、宮崎大学医学部では、以前より医療人育成推進センターが中心となって、卒前・卒後の一貫教育と地域医療に貢献できる優秀な医療人の育成に邁進してきました。

今後とも、宮崎県内の地域医療を支えながら、また、全国でも活躍できる幅広い視野と豊かな人間性をもつ医療人の育成のため、鋭意活動を行っていきたくと考えています。本センターの活動への一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



新任教員紹介

臨床医学教育部門 中村 仁彦

医学部附属病院では救命救急センターの一員として勤務しております。縁ありまして、2021年4月から医療人育成推進センターのスタッフとなりました。

医学生や看護学生、初期研修医の実習や教育に携わるようになり、自分が学生や初期研修医だったときに、どれだけ多くの方の労力や時間が注がれていたかわかりました。自分がその立場になってみて、非常にやりがいを感じます。自分自身も教育者として成長したい所存です。宜しくお願いします。



学会発表報告

学会名 第9回日本シミュレーション医療教育学会

演題名 『新型コロナウイルス感染症に伴う新研修医オリエンテーションでの限定的基本手技実習の有用性と限界』

発表者 臨床医学教育部門 宮内俊一

令和3年10月23日(土)、「第9回日本シミュレーション医療教育学会学術大会」が帝京大学主催でオンライン開催されました。医学部附属病院・卒後臨床研修センターの教員としてという演題名で発表しました。聴講者からいただいた幾つかの質問について活発な議論をさせて頂き、大変勉強になりました。パンデミックという余りにも特殊な状況を我々は経験しましたが、そうでなくともより良い教育の在り方は常に模索していく必要があります。今回は研修医を対象に行ったアンケート調査をまとめました。今後もこういった調査・検討を継続したいと思います。関係各位のご協力をよろしくお願いたします。(宮内)



医学部1年 『医学・医療概論』特別講義

「命(人間)はみな同じ ―医師は患者さんによって成長する―」



令和3年6月30日(水)、医学部1年生の『医学・医療概論』で、2009年度から12年間ご担当いただいた柴田紘一郎先生による最終講義が行われました。林克裕前教授(現・宮崎県済生会 日向病院 院長)が、車のラジオから流れた『風に立つライオン(作詞/作曲 さだまさし氏)』を聴き、ぜひ宮崎大学医学部1年生に講義してほしいと柴田先生へお願いしたのがきっかけでした。

授業を受けた学生からは、「風に立つライオンのモデルとなった柴田先生の講義が受けられるとは思わなかった」、「宮崎大学に入学してよかった」といった嬉しい感想をいただきました。

柴田先生が大切に伝えてきた「医者は5者であれ」、「LOVE(Listen・Overview・Voice・Excuse)」、「医療とは、ときに癒し、しばしば支え、常に慰む」などの言葉は、12年の月日が流れても学生の心に響き続けています。柴田先生、12年間本当にありがとうございました。(舟橋/小松)



「宮崎県地域医療支援機構大学分室」

宮崎大学医学部地域枠・地域特別枠・地域貢献枠学生対象 全体ミーティング

/// 全体ミーティングとは

地域医療従事への意欲向上を図り、キャリア形成プログラムの正しい理解を深めるため、令和元年から年に1回、宮崎大学医学部地域枠、地域特別枠、地域貢献枠の学生に対し、宮崎大学医学部や宮崎県、学年リーダー（各学年の代表者）とミーティングを企画し開催しています。令和3年度の宮崎大学在籍学生数は、地域枠46名、地域特別枠65名、地域貢献枠9名、計120名となっています。

/// 令和3年度 全体ミーティング



令和3年7月20日（火）、宮崎大学医学部講義実習棟303教室にて「令和3年度宮崎大学医学部地域枠等学生全体ミーティング」が行われました。当日は医学科地域枠・地域特別枠、地域貢献枠の1年生から6年生79名、片岡医学部長、鮫島病院長、宮崎県医師会常任理事金丸先生をはじめとする先生方や県医療薬務課など関係者24名、計103名が出席いたしました。

1年生にとっては今回が初めての全体ミーティング出席となりました。1年生の自己紹介や年間活動計画についての説明が行われました。（舟橋）

/// 特別講演 「長崎大学における地域枠制度と地域医療教育」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療学分野の永田康浩教授より「長崎大学における地域枠制度と地域医療教育」についてご講演を賜りました。

長崎大学では、五島セミナーや平戸合宿といった2泊3日の地域体験型学習をはじめ、地域医療で活躍する著名人による講演会など、地域枠学生を対象とした特別カリキュラムを行っており、いずれも立案や企画に学生が主体的に関わっているということでした。さらに、全学生を対象に様々な施設（リハビリテーション施設、高齢者施設、診療所、離島、地域中核病院等）での実習や、多職種連携教育の一環として歯薬学部や保健学科などの他分野を学ぶ学生との合同学習も行っており、地域枠に限らず全学生への地域医療教育にも力を入れていました。また、年一回の離島地区の指導者との報告会や臨床指導医講習会で地域病院との連携や教育力の向上・強化を行い、職種を問わず地域医療教育の指導者を大学が認証する『臨床教育マイスター制度』を設けることで教育の質を保つなど、教育体制の充実も行われていました。

今回はコロナ禍での開催であったため、web講演となりましたが、『臨床教育マイスター制度』など長崎大学独自の興味深い取り組みを知る貴重な場となりました。また、長崎大学医学生の主体性に本学の学生もいい刺激を受けたと思います。本ミーティングも学生が能動的に活動できる場になれるよう、今後の活動を検討していきたいと思います。（中村佳菜子）



web特別講演の様子

/// グループワーク 「自分が将来目指す医師像～宮崎県の地域医療を活性化するためには～」



以前より、学生の皆さんからはキャリア形成プログラムの話を聞いたりするだけではなく、地域枠・地域特別枠・地域貢献枠の学生と話したり、卒業生の先生に話を聞いてみたいという声が多く上がっていましたが、コロナ禍でなかなかその機会を作ることができませんでした。しかし、今回は新型コロナウイルスの流行もすこし落ち着いて、関係各所の協力もあり、短時間でしたが、グループワークを行うことができました。

今回のグループワークでは「自分が将来目指す医師像～宮崎県の地域医療を活性化するためには～」という課題に対して、1年生から6年生を混合した小グループに分かれて議論してもらいました。また、各グループに一人ずつ、これまで

地域枠、地域特別枠で入学し、現在大学病院で活躍している先生方、合計10名(小児科:山下尚人先生、明利聡瑠先生、波種真希先生、二見加菜先生、木下弘一先生、救命救急センター:田中達也先生、皮膚科:長野愛実先生、産婦人科:長島陽子先生、放射線科:明利陸征先生、呼吸器・乳腺外科:田平康晴先生)に入っただき、自分の経験などを含め助言していただきました。



これまで他学年の地域枠・地域特別枠生と関わる機会があまりなかったこともあり、グループワーク開始直後はみんな緊張した様子でしたが、6年生や地域枠卒業生の先生方を中心にうまく議論していました。時間の都合もあり、40分と短い時間で、議論は尽きなかったと思いますが、低学年は入学時の初心を思い出させてくれるような意見、高学年は卒業後の現実を踏まえた意見、というように様々な意見があり、僕も非常に興味深く見ていました。将来目指す医師像は、「しっかりと知識と技量を持ち、患者さんに信頼される医師」というところはこのグループも共通しており、その中で、どうしたら、信頼される医師になれるか、知識とは医療の知識だけでよいのか、各地域の特性などもしっかり知識として知らないといけない等、各グループで議論されていました。

また、今回のグループワークの中で、「低学年のうちから地域医療に触れて地域医療を学ぶことで、将来的に宮崎の地域医療が活性化するのは」、「多職種との連携が重要で今後医師として活躍するためには多職種への理解、協力が必要」、「卒業後の先輩との縦のつながりをもっと密にして、いろいろ意見を聞くことで目指す医師像をより具体的にイメージしたい」などの意見がありましたので、今後そのような機会も増やしていけたらと考えています。

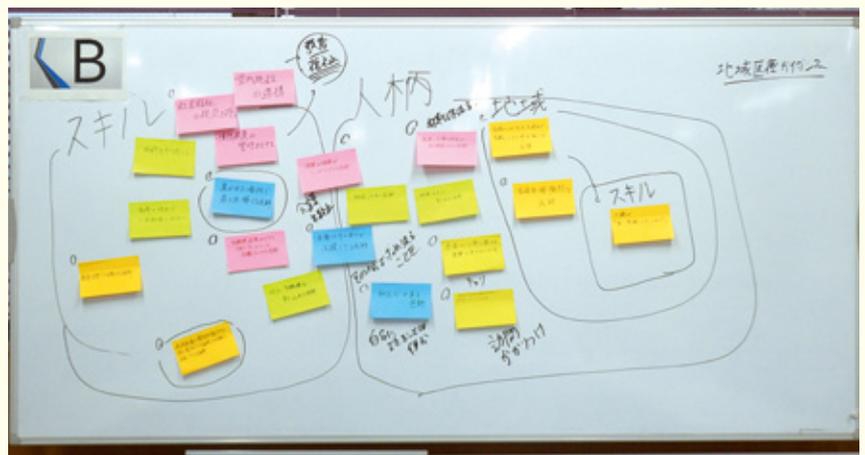
今回は初めての試みで、まだ、あまりお互いのことも知らなかったため、自分の意見をうまく伝えられなかった学生もいたと思いますが、今後もこのようなグループワークや、他学年、地域枠卒業生との交流を持つ機会を増やしていく予定です。地域枠・地域特別枠・地域貢献枠の学生、卒業生がひとつにまとまって何でも相談しあえる関係になることを願っています。さらに、来年度からは地域枠の定員が25名から40名へと増えるので、先輩となる学生の皆さんにはぜひ、これからの宮崎大学、宮崎の医療を引っ張って行くことを期待しています。(黒木)



グループワークB班の発表の様子

メンバー(9名)

1年1名	地域特別枠
2年2名	地域特別枠
3年2名	地域枠特別枠/地域枠
4年1名	地域特別枠
5年1名	地域特別枠
6年2名	地域枠特別枠/地域枠



自分が将来目指す医師像

- 置かれた場所で最大限に輝く医師になりたい。
- 宮崎の医療現場で求められるニーズに最大限に対応できるような医師になりたい。
- 地域枠ということで、宮崎にずっと居るからこそ、宮崎の医療資源や医療施設を理解し、良い医療をしていきたい。
- 多職種連携等を考えていける医師でありたい。

地域医療オリエンテーション

令和3年3月16日(火)、宮崎県庁講堂にて、令和3年度入試合格者21名(宮崎大学医学地域枠7名、宮崎大学医学部地域特別枠9名、長崎大学医学部宮崎県枠2名、自治医科大学3名)のオリエンテーションが実施されました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、今回は感染対策を十分に行い実施いたしました。

河野県知事を囲んでの記念撮影後、今回は「先輩医師に聞いてみよう!」を企画し、事前に質問を受け付け当日回答する形にしたところ、「大学生活」「医師のキャリア」「地域医療」「ライフワーク」など多くの質問をいただき、各コーディネーターが自分の経験を交えながら話す内容について、熱心に耳を傾けていました。



学年ミーティング

令和3年5月28日(金)、地域枠・地域特別枠学年リーダー顔合わせ及びミーティングを行いました。今回は、県地域医療支援機関の中村豪先生をはじめ、分室長の小松弘幸、分室医師の黒木純、地域医療・総合診療医学講座の吉村学先生、キャリアデザインサポート委員長の澤口 朗先生、県医療薬務課等関係者11名と各学年リーダー15名、計26名が参加し、年間スケジュールや個別面談実施状況、令和3年度宮崎大学医学部地域枠・地域特別枠・地域貢献枠「全体ミーティング」の企画について意見交換をし、7月開催に向けて検討していくことになりました。



宮崎県政番組「みやざきゲンキTV」～おしえてケンチャー!～



令和3年9月19日(日)、「みやざきゲンキTV(UMK)」おしえてケンチャー!のコーナーにて、「宮崎大学地域枠」について取り上げていただきました。

令和4年度から地域枠A～Cの募集が40名へと拡充することや宮崎県キャリア形成プログラムの説明、地域枠学生へのインタビューなど盛りだくさんの内容です。

詳しい内容は、URL(<https://www.umk.co.jp/genki/20210919-1.html>)
またはQRコードからチェックしてみてください。▶



宮崎から医師を目指そう!応援フォーラム

令和3年10月24日(日)、宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会主催による「宮崎から医師を目指そう!応援フォーラム」が宮日会館(宮崎市)で開催され、医学部を目指す宮崎県内の中・高校生やその保護者204名に参加いただきました。

今回で通算4回目の開催となり、企画内容のリニューアルを試み、サテライト会場を延岡・都城・日南の3カ所に設置し、オンライン配信を行いました。

本センターの小松(宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会副議長)が、司会・進行を務めました。

前半では、共通テストおよび一次入試にスポットを当て、宮崎大学や九州大学の学生に学習法や合格へのコツを伝授していただきました。また、医学部のキャンパスライフについても紹介していただきました。

後半では、「医学部卒業後の医師キャリア～医療現場の第一線で働く医師からのメッセージ～」と題し、中村豪先生(外科)、坪内拓伸先生(内科)、松浦良樹先生(総合内科)、中村佳菜子先生(内科)に、それぞれの経験に基づく医師キャリアについて話していただきました。また、地域医療支援機構大学分室医師の黒木純先生からは、令和4年度から学校推薦型選抜の名称が「地域枠A、地域枠B、地域枠C」となり25名から40名へと拡充になることや選択方法が変更になったことが説明されました。

最後に、ご参加いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

医師を目指す皆さんの夢を、今後もAll Miyazakiで応援していきたいと思っています。



医療人育成推進センターホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryoujin/>

医療人育成推進センターFacebook

<https://ja-jp.facebook.com/iryoujinikusei/>



《HP》



《facebook》

宮崎大学医学部医療人育成推進センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:ikyoku@med.miyazaki-u.ac.jp